

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 月 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・技術専門職員
氏名	鈴木 崇文

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
鹿児島県熊毛郡屋久島町
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島技術職員生息地研修
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 3 月 11 日 ~ 平成 27 年 3 月 14 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
澤田晶子特定研究員 (野生動物研究センター)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の渡航は、代表的な霊長類・野生動物の生息地である屋久島でヤクザルの生態観察、彼らを取り巻く自然環境を肌で感じることで各々の業務にフィードバックし技術職員としての資質の向上を目的としている。
日程：3 月 11 日 屋久島入り 空港より南回りで永田へ (途中西部林道でヤクザルの観察) 3 月 12 日 午前：西部林道でヤクザルの生態観察 午後：屋久島町役場を訪問し獣害についてのヒアリング 3 月 13 日 終日：西部林道でヤクザルの生態観察 3 月 14 日 午前：白谷雲水郷トレッキング 午後：屋久島
同行者：澤田晶子 (野生動物研究センター) 兼子明久 (霊長類研究センター・技術職員) 橋本直子 (霊長類研究センター・技術職員) 山中淳史 (霊長類研究センター・技術職員)
現地での案内、指導は野生動物研究センター特定研究員の澤田晶子氏にお願いした。澤田氏は長期間屋久島での調査経験があり調査地に精通しておられるだけでなく、地域の方々とも広く交流がある。
○西部林道での生態観察及び生息地調査 11 日～13 日の 3 日間西部林道でヤクザルの生態観察を行った。全日で個体群を観察できた。すべて道路沿いで発見でき 13 日には追跡調査を行い林内へ入った。3 月は植物のシュートが伸びてきておりサルたちが盛んに新芽を採食している様子を観察することができた。植物ではタブノキ新芽、花芽、ウラジロエノキ新芽、クスノキ新芽、イヌビワ新葉、マテバシイ落果、ヒメユズリハ葉、アコウ葉、ハドノキ花？、シダ類葉などの採食が確認でき、枯れ木の中から何かの幼虫を見つけ出し採食する様子も観察できた。行動追跡では 3 時間程度追跡を行ったが大きく移動はせず比較的近くの木への移動が多かった。タブノキの新葉花芽の採食時間が長かった。この季節に採食可能な樹種が比較的密生してたのではないかと考えられる。また、サルが樹上で採食していると地面にはシカがいることが多かった。澤田氏によるとこの季節は樹上で採食しているサルたちの下でシカが落下してきた食べ残しを採食することが多くサルとシカが同所的にいる事が多いという事だった。そのためかほかの季節ではシカは警戒して逃げてしまうため間近で観察することはできなかったが、この時期はシカと観察者との距離が近く観察が行い易く感じた。他種の生物がこのように共存している様子を間近に感じる事ができ非常に興味深かった。また、西部林道以外の地域でも個体群の観察を行う事ができた。12 日の午後から安房からヤクスギランドに向かう途中で個体群を発見した。ここの個体はシダ類を食べていた。西部林道周辺ではシダ類はたまに食べる程度しか観察できなかったがここでは盛んに食べている様子が観察できた。しかし、我々が車から降りると次々に個体が近づいて来て観光客から食物を頻繁にもらっていることが容易に想像できた。13 日には西部林道でも観光客がお菓子を与えている所を目撃した。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

その観光客が去った後でも我々に対し自ら近づいて何か物ほしそうな様子でこちらを伺っていた。こういった行動が野生生物に与える影響は非常に大きくすぐに行動となって現れる。西部林道では初めて見たため少なからず衝撃を受けた。屋久島では食べ物を与える行為は違法であり徹底して禁止されていると思っていたがごく一部の観光客にはまだ周知されていない現状を目の当たりにした。

屋久島と幸島では同じ九州南部という近い地理的条件でありながら採食や行動など異なる点が多く非常に興味深く感じた。



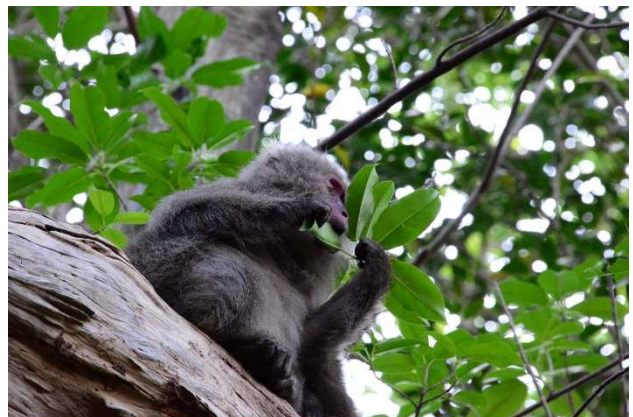
枯れ木の中から幼虫を見つける



西部林道での観察



アラカシの落果を食べる



アコウ葉の採食



安房林道にて餌付いたサルが車に乗ってくる



サルが落としたタブノキの花芽を食べるシカ

○獣害対策ヒアリング（於：屋久島町尾之間支所）

12日の午前中に屋久島町役場農林水産課の泊氏、日高氏、渡邊氏にお時間を作っていただき獣害及びその対策について話を伺う事ができた。平成16年度から25年度までの鳥獣被害の資料をいただいた。屋久島はポンカン、タンカンなどの柑橘類をはじめ茶、ビワやサツマイモなどの農作物を栽培されている一方、ヤクザル、ヤクシカなど野生動物が高密度に生息しており動物から作物への被害が多い。H25年度から農家への調査方法が変更になったため一概に比較はできないが、シカからの被害が多くなっているようである。以前は

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

シカは南部にはあまり出てこなかったが近年南部にも現れるようになったということで、島南部に耕作地が集中していることから被害が増加しているものと考えられる。対策としては電柵による防除が主な方法である。南部周辺の耕作地を見ると大規模なものから比較的簡易的なものまで様々であった。農家の方の管理もきちんと行われている農地も多くある一方放置している所もあった。2007年に屋久町と上屋久町が合併しているが未だ旧屋久町、旧上屋久町の間で獣害対策への取り組みでも差があるようだった。有害鳥獣駆除による捕獲も行われている。8割程度はくくり罠である。ここでもシカの駆除数が増加傾向であった。サルの被害は決して少なくはないが横ばい傾向であるがシカの被害は増加している為、シカへの対策に力を入れられているように感じた。



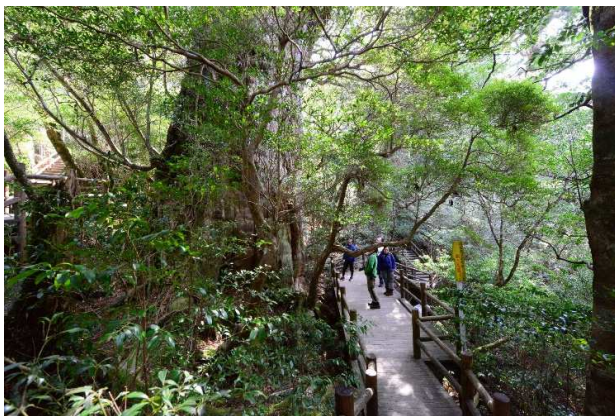
屋久島町尾之間支所にて



大規模な電気柵

○まとめ

研修初日は3月にもかかわらず強い寒波が押し寄せた。南方にある屋久島の例外ではなく高標高域では積雪している様子が見れた。一週間に八日間雨が降ると言われる屋久島で最も天候が心配されたが2日目以降天候にも恵まれ清々しい気持ちで研修を終える事ができた。西部林道では多くの個体群を観察でき個体識別用の写真も多数撮影できた。また、現在、西部林道周辺は人家がないが以前集落があった跡地も初めて見る事ができた。2日目には紀元杉を4日目には白谷雲水郷トレッキングと屋久島の自然の多様性を見る事ができた。イレギュラーなイベントであったが屋久島ステーションのある永田地区の祭りに参加させていただいた。二十三夜祭という古く永田地区で行われてきたお祭りであったが近年途絶えていたようだ。昨年再開し今年から本格的に復活しようという記念すべき回に参加させていただいたのは良い機会であった。小さな集落でありながら漁師、農家のかたをはじめ警察官や診療所の医師の方など多くの方が住んでおり非常に賑やかであった。地方の研究フィールドを維持するためには地元の方との交流が不可欠でありこのように交流が持てたことは今後につながるものだと感じている。一方で獣害や観光客の餌やり問題など負の面も垣間見る事ができた。観光客が食べ物を与えることで人に馴れ、人間の食べ物を覚えてしまいそれが農作物被害へつながっている側面もあるように感じる。野生動物と共存していこうとする屋久島では獣害は完全になくすることは難しいだろう。野生動物と人間の距離感をいかに維持できるか今後の課題であると思う。2014年10月に開所したPWSハウス屋久島に宿泊することができた。全般的に快適であったが使ってみないとわからない不便なところなどがあつた。以上のような経験を通して2015年度春の屋久島実習に役立てる事ができる多くの知識を得る事が出来たのではないだろうか。



紀元杉



白谷雲水峡の苔生した岩

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



永田地区伝統の亀女踊り



高標高は積雪

6. その他 (特記事項など)